

さとうきびの多回株出機械化一貫体系及び省力製糖技術の確立

1. 研究目的

難防除雑草の発生を抑制する技術を確立することで、さとうきび株出し栽培の収量を安定させる。また、糖汁の保管技術を確立することで、製糖工場における結晶工程の分離を図り、時間外労働を軽減することを目的とする。

2. 研究背景

さとうきびの生産現場では、新たな雑草が侵入している。これらは防除が難しく、株出し栽培に悪影響を及ぼしている。

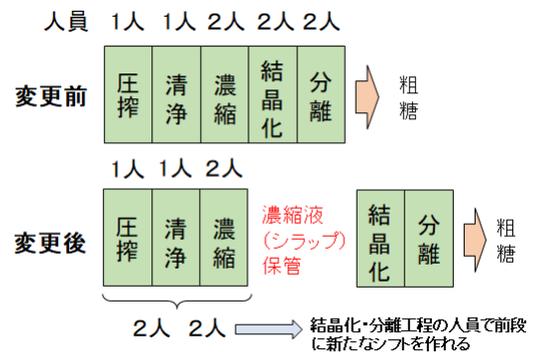
また、さとうきび製糖工場は収穫期に24時間連続操業に伴う、時間外労働が常態化している。その打開策として結晶化工程の分離が求められている。



新たな侵入雑草の例（ギニアグラス）

3. 研究内容

- ① 雑草抑制に効果の高い薬剤の選定とそれらの利活用の開発
- ② さとうきびの初期生育改善による雑草発生量の軽減技術の開発
- ③ シラップ※の保管技術による結晶工程分離型製糖技術の開発
※シラップ：さとうきび搾汁液の濃縮液



製糖工場の結晶工程分離型製糖技術

4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- 雑草発生圃場での地域平均収量確保を目的とした雑草管理マニュアルの作成
- シラップの4ヶ月の貯蔵を可能とする保管マニュアルの作成

期待される効果

- さとうきび株出し栽培の収量安定化
- 製糖工場における作業負荷軽減および労働時間の削減

研究代表機関：農研機構

共同研究機関：鹿児島県（農業開発総合センター、工業技術センター）等